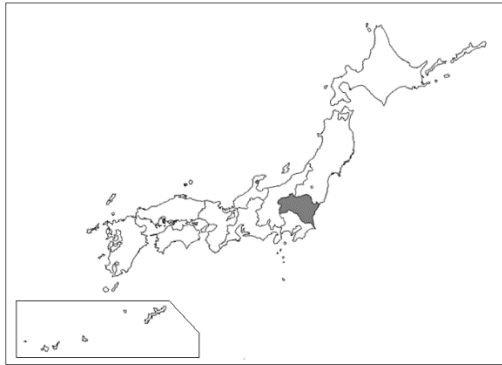


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

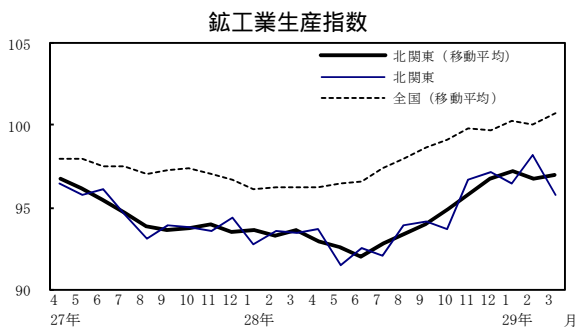
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 2 月)	今回 (平成 29 年 5 月)	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1～3月期は、石油・石炭製品、化学、プラ製品は増加した。電子デバ、電気・情報通信は増加した。輸送機械も北米向け輸出が引き続き好調で増加した。汎・生産・業務用機械および鉄鋼業、非鉄金属、金属製品は、需要は堅調であるものの、減少した。



- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均。
 3. 北関東は内閣府にて算出。

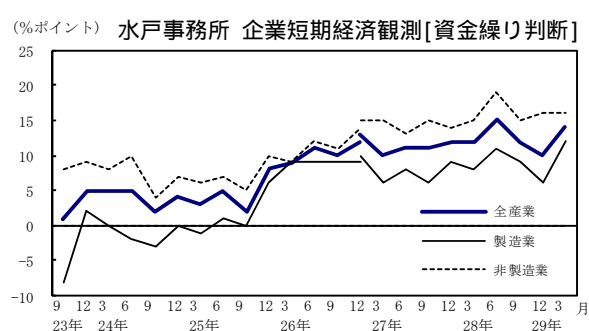
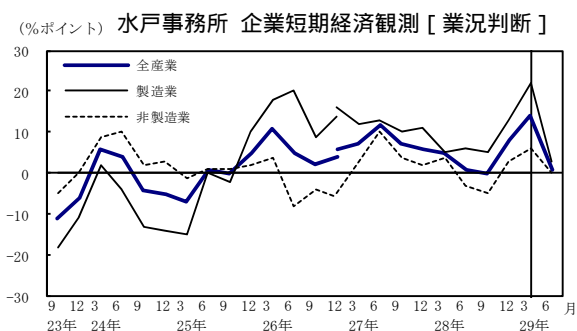
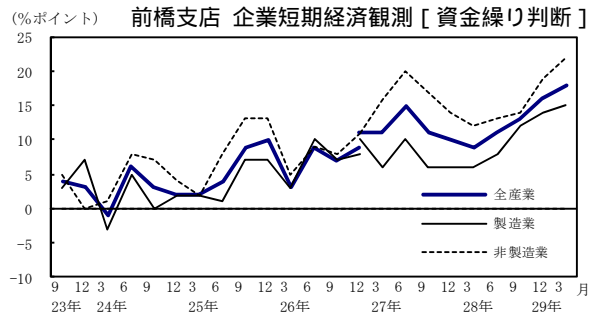
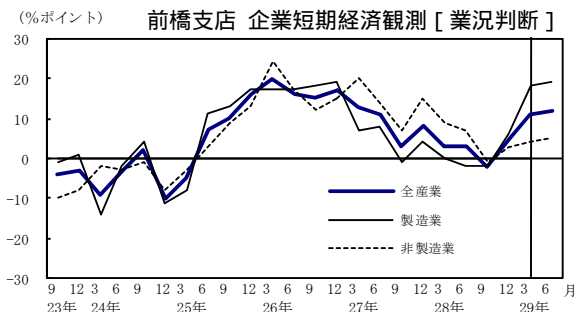
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラ製品	19.7	3.8	1.9	1.3	▲0.5	▲3.6
電子デバ、電気・情報通信	19.5	0.4	0.4	0.1	▲0.1	▲5.7
輸送機械	18.4	4.6	2.7	▲2.4	6.3	▲1.1
汎・生産・業務用機械	16.0	4.2	▲0.3	▲0.8	1.8	▲1.3
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.9	1.7	▲0.1	▲3.5	3.1	▲2.0
鉱工業	100.0	2.7	1.0	▲0.7	1.9	▲2.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 1～3月期、3月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

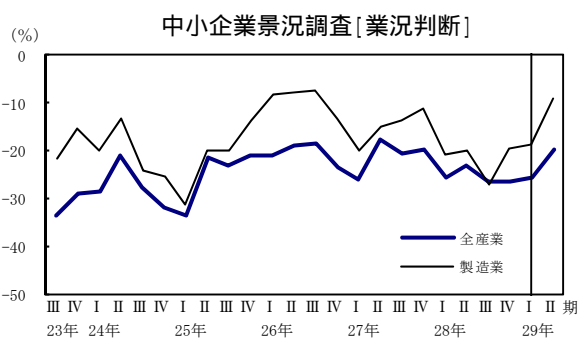
(2) 前橋支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
水戸事務所の企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。29年6月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好轉」 - 「悪化」 回答者数構成比。29年II期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

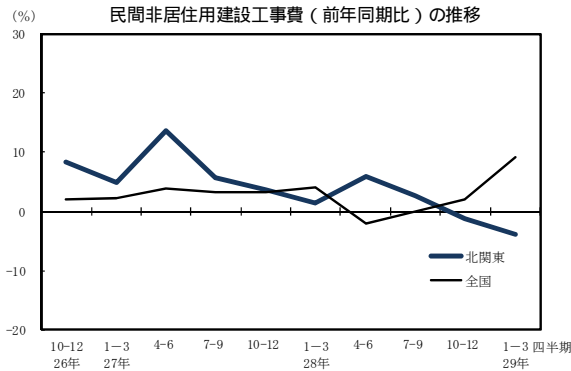
「売上の量、金額共に順調に伸びているが、人件費の高騰、資材費等、諸経費の値上がりによって、利益率は低下している (食料品製造業)」等の回答がみられた。

(3) 北関東

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)



	28年度実績見込み	29年度計画
全産業		
前橋支店	11.4 (▲2.4)	4.9
水戸事務所	9.1 (▲4.2)	13.4
製造業		
前橋支店	22.3 (▲2.3)	6.8
水戸事務所	19.0 (▲8.7)	25.5
非製造業		
前橋支店	▲16.1 (▲2.5)	▲2.4
水戸事務所	▲0.4 (1.6)	▲0.6

(備考) () 内は前回(12月)調査との修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比2.6%増、2月は同4.0%増、3月は同4.4%減となった。

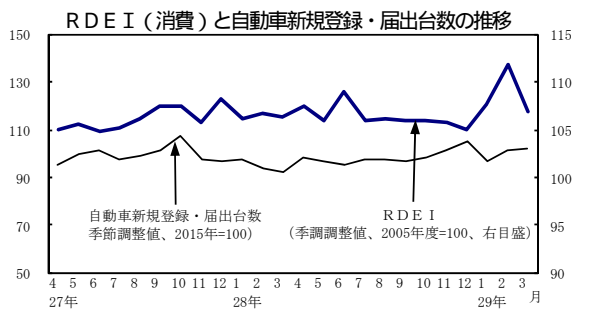
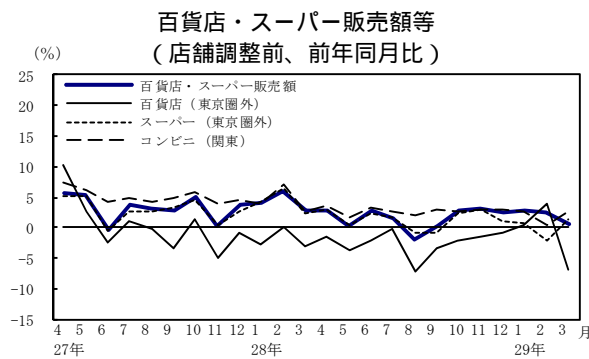
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月、2月は閉店セールの影響もあり前年同月比で増加したものの、3月は衣料品、家庭用品、飲食料品の動き等が鈍かったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、衣料品、家庭用品は不調であったものの、飲食料品、その他の商品が前年を上回ったことから、前年並みとなった。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「既存店の売上は、集客イベントの回数を増やしたり、価格訴求等でどうにか前年を維持している。3か月前と比較しても変動がない (スーパー)」等とする回答がみられた。



	29年1-3月	29年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	3.1	2.6	4.0	▲4.4
百貨店・スーパー(*2)	1.9	2.8	2.3	0.6
百貨店(*3)	▲1.1	0.5	3.9	▲6.8
スーパー(*3)	0.0	0.6	▲2.0	1.3
コンビニ(*3)	1.9	2.6	0.4	2.7
乗用車(*4)	7.1	1.3	7.8	10.6
(季節調整値) (*4)	▲1.5	▲8.0	4.6	0.9

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同(月)期比

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同(月)期比

・百貨店、スーパーは、関東経済産業局の東京圏外 (茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡) の値。

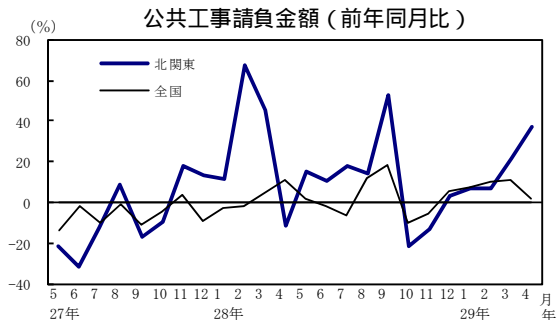
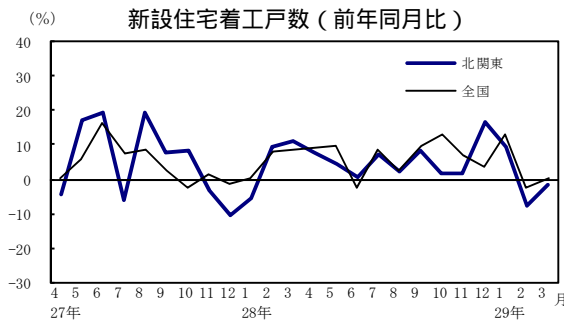
・コンビニは、経済産業省の関東 (茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡) の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期 (月) 比 (%))

(2) 住宅建設は横ばいとなっている。

貸家、分譲は増加したものの、持家が減少したことから、おおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。

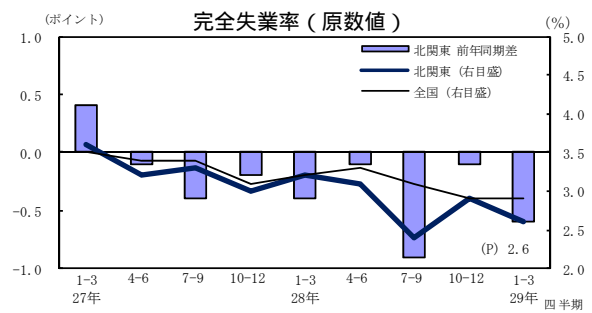
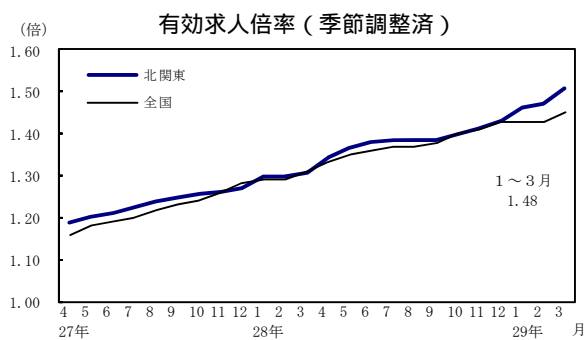


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 1. 北関東は内閣府にて算出。
2. 1-3月期の値は暫定値。

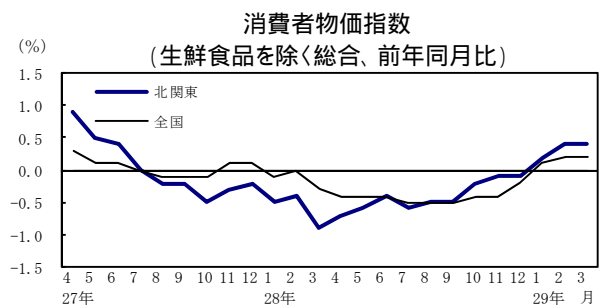
景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[雇用関連(現状)]

「求人の検討から決定までのスピードが格段に早く、次々と選択肢を提示されている(人材派遣会社)」等の回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、上昇に転じている。

企業倒産	(件、億円、%)				
	28年4-6月	7-9月	10-12月	29年1-3月	29年4月
倒産件数	93	77	95	90	19
(前年比)	14.8	▲22.2	13.1	▲8.2	▲40.6
負債総額	205	121	183	165	56
(前年比)	65.9	▲38.1	93.8	▲26.3	44.9



(備考) 北関東は内閣府にて算出。

(3) 北関東

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・3～4月は年度末の前後で、受注量や販売量が増加している。今年は特に例年以上に増加している(その他製造業 [環境機器])。

<先行き>

- ・大手企業は、例年通りの動き出しのようである。今ある求人に飛びつき、複数の内定を取っている大学生も多いが、職種がまちまちで、最終決定をどのようにするのか決められない学生もいる。同業種でも景気や就職に対する慎重な態度の会社などさまざまである(学校 [専門学校])。

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

